

ワークライフバランスチームの活動

山本かおり¹・安形保則²・大西明子¹・谷山八千代¹・服部崇哉³・東美緒²

名古屋工業大学 技術部 計測分析課¹

名古屋工業大学 技術部 装置開発課²

名古屋工業大学 技術部 情報解析技術課³

平成 29 年 2 月に岩手大学で開催された「女性技術系職員の人材育成を考えるシンポジウム」に参加したことが、技術職員のワークライフバランスについて考えるきっかけになった。学内でもワークライフバランスに関するセミナーを開催しようと企画し、平成 29 年度は有志が集まって実施した。その翌年の平成 30 年度は、ワークライフバランスセミナー実行委員会としてセミナーを実施した。翌 2019 年度からは技術部のチームとして認められ、ワークライフバランスチームとして活動している。今回は、チームの活動について報告する。

Key Words : 働き方, コミュニケーション, 人材育成

1. はじめに

ワークライフバランス、働き方改革などの言葉を見聞きすることが増え、様々な働き方が選択できる世の中になってきた。大学職員についても、勤務時間は決まっているものの、子育てや介護のための制度が徐々に整備され、働きやすい環境が整えられつつあることを感じる。一方で、技術職員としての自身の働き方や将来像を考えたときに、それについて誰かと話し合ったり、意見交換を

したりする場が必要であるということに、平成 29 年 2 月に岩手大学で開催された「女性技術系職員の人材育成を考えるシンポジウム」に参加して気がついた。そこで、平成 29 年度に有志で集まり、学内の女性技術職員が話し合う機会を提供することをねらいとしたセミナーを実施することにした。翌平成 30 年度は、実行委員会を立ち上げ 2 回目のセミナーを実施した。2019 年度からはワークライフバランスチームとして活動を行っている(図-1)。

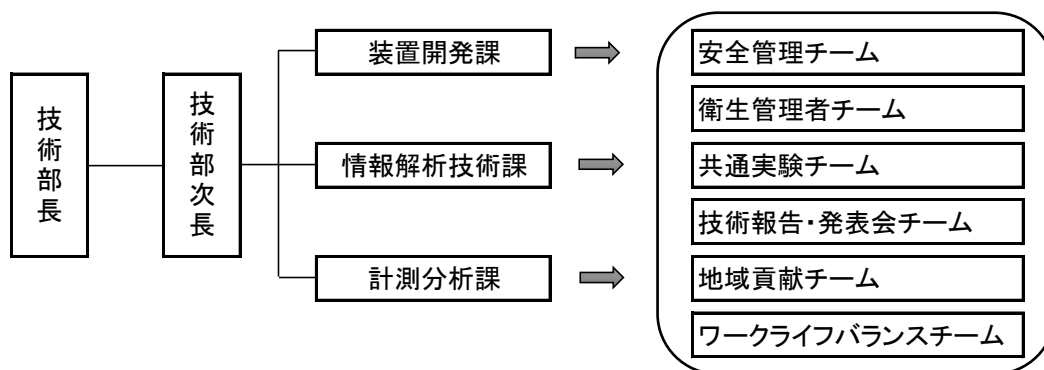


図-1 名古屋工業大学技術部組織図

2. 平成 29 年度ワークライフバランスセミナー

セミナー概要を表-1に示す。当初は女性技術系職員を対象とした研修を企画したが、平成 29 年 4 月に大同大学学長に就任された神保睦子先生に、特別講演「女性と家事・育児と仕事」をお引き受けいただけたことから、特別講演については研修参加者以外も参加可能とした。このことを広く周知するためにポスターを作成して、学内外に広報を行った(図-2)。

午後の研修ではテーマを設定し、ワールドカフェ方式をアレンジした方法でディスカッションを行った。研修プログラムとディスカッションのテーマを表に示す(表-2, 3)。研修の実施にあたっては、実際に役に立つものであること、実施後により前向きに業務に携わっていけるようなものになることを念頭に計画を立てた。ディスカッションだけでなく、参加者同士が自由に話し合えるように交流会の時間も設けた。また、研修参加者で昼食会を行ったことがアイスブレイクの役割を果たし、午後の研修がスムーズに進行した。

実施後のアンケートからは、参加者の皆さんそれぞれが何か役に立ちそうなことを得ていただけたことが窺え、当初の目的は達成できたと考えている。また、次回開催の希望も多くいただいたので、翌年も開催することになった。

表-1 セミナー概要

	平成29年度			
	ワークライフバランスセミナー ～技術系職員である私の未来を考えるための研修～			
日 時	平成30年3月19日(月)11:00～15:30			
主 催	名古屋工業大学 技術部			
共 催	名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター			
対 象	女性技術系職員			
プログラム	内 容	時 間	参加者数 (学外:学内)	備 考
	特別講演	11:00～12:00	100名 (27:73)	研修参加者以外も参加可能
	昼食会	12:00～13:00	24名 (14:10)	
	研 修	13:00～15:30	22名 (14:8)	
託児利用	3組5名			
実施者	有志			



図-2 ポスター

表-2 研修プログラム

時 間	内 容
13:00～13:15	開講挨拶 オリエンテーション
13:15～13:50	ディスカッション1
13:55～14:30	ディスカッション2
14:30～15:00	休憩&交流会
15:00～15:25	まとめ
15:25～15:30	閉講挨拶

表-3 ディスカッションテーマ

テーマ	内 容
1 過去	これまでに困ったことは何ですか？ それをどう乗り越えましたか？
2 現在	ワークライフバランスを取るために工夫していることは何ですか？
3 未来	5年後、どんな自分になりたいですか？ そのために今やっていること、これからやろうとしていることは何ですか？

3. 平成 30 年度ワークライフバランスセミナー

セミナー概要を表-4に、ポスターを図-3に示す。初年度のディスカッションで、それぞれの参加者の過去・現在・未来を共有したので、次は、困っている人を支えるためにどうすればよいかを学べる研修を実施することにした。今回も、対象は女性技術系職員としたが、研修①では学外から垣内芳文氏（一般社団法人ワークライフバランス東海）を講師として招いての研修を企画したので、学内の全構成員を対象として参加者を募った。専門家による研修を実施したことで、支えあうにはどうすればよいか理解を深めることができた。研修①②の詳細を表に示す（表-5、6）

午後の研修②は、委員会で進行を行った。垣内講師には、午後の研修②につながるような研修にしていきたいという要望を伝えてあったので、研修①で作成したふせんを研修②で利用するなど、流れのあるプログラムにすることができた。また、研修①で話題になりそうなテーマ（環境・スキルアップ・自分・家族）をあらかじめ考えておき、研修②でそれらについてグループディスカッションを行うという予定を立てることもできた。更に、ディスカッションの後でグループ毎のまとめを発表したことで、他グループの話し合いの内容についても共有することができた。

表-4 セミナー概要

	平成30年度			
	ワークライフバランスセミナー ～支えあう職場環境をめざして～			
日 時	平成31年3月15日（金）10:00～15:30			
主 催	名古屋工業大学 技術部			
共 催	名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター			
対 象	女性技術系職員			
プログラム	内 容	時 間	参加者数 (学外:学内)	備 考
	研修①	10:00～11:30	37名 (10:27)	研修参加者以外も参加可能
	昼食会	12:00～13:00	17名 (10:7)	
	研修②	13:00～15:30	18名 (10:8)	
託児利用	2組3名			
実施者	ワークライフバランスセミナー実行委員会			



図-3 ポスター

表-5 研修①プログラム

時 間	内 容
10:00～10:05	開講挨拶 オリエンテーション
10:05～11:30	抱え込まず支え合うチーム (職場)づくりのためのコミュニケーションを考える 講師 垣内芳文 (一般社団法人ワークライフ バランス東海)

表-6 研修②プログラム

時 間	内 容
13:00～13:10	写真撮影 オリエンテーション
13:10～13:30	ふせんの貼り換え
13:30～14:30	ディスカッション
14:30～15:25	発表・交流会
15:25～15:30	閉講挨拶

4. ワークライフバランスチームの活動

2 回のセミナーの実施を経て、「技術部職員のより良いワークライフバランスに関する取り組みについて考え、その実現に向けた研修を実施するため(ワークライフバランスチーム内規より抜粋)」に、2019 年 4 月よりワークライフバランスチームとして活動を開始した。チームは、チームリーダー、サブチームリーダー各 1 名、チーム員 4 名(男女比=1:2)で構成されている。過去 2 回のセミナーで、研修であれば出張扱いだが、セミナー参加は出張とは認められないということも耳にしたので、今後は研修として実施することにした。また、対象者も、過去 2 回は女性技術系職員としてきたが、それにはとらわれずに実施していくことにした。

研修の最終目標を検討したところ、「QOL(QWL)の向上」、「楽しく仕事する」、「全員が幸せに働ける職場」などの意見が出された。これらの目標を達成するためにどのようなテーマで研修を進めていくか検討を行い、「自分」→「周囲」→「全体」というステップで、数年をかけて最終目標に到達するように研修を進めていくことになった。

チームでは、研修を企画する上で参考となるような、講習会や研修会には積極的に参加して情報収集を行っている。テーマに関する情報や、研修の内容だけでなく、その進行方法や研修を依頼できそうな講師の方を探し出すことにも着目して、得た情報はチームで共有している。

また、学内外でセミナー実施報告を行い、情報の発信も積極的に行っている¹⁾⁻⁶⁾。発表することで、より多くの方にワークライフバランスについて知っていただき、情報交換をさせていただきたいと考えている。チームの HP (<https://www.tech.nitech.ac.jp/>)についても準備中である。

2020 年 8 月に実施する研修では、アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)を取り上げる。これまで無意識のうちに持っていた偏見に気づくことを目標に研修を実施する。詳細については準備中で、まずは、チーム内でアンコンシャスバイアスについて知ることから始めている。

5. おわりに

ワークライフバランスを考えることは、日常の業務には直結しないが、長く働き続けるためには避けて通れない課題である。チームとして発足したことで、それが、現在の名古屋工業大学技術部には必要なことであると認められたことになると考えている。

過去 2 回のセミナーの実施を通して感じたことは、セミナーの実施に向けて話し合いをしている時間が、何よりも技術職員同士が話し合う良い機会となっているということである。どれだけ世の中が変化しても、人と人とのコミュニケーションが大切なことは、この先も変わらない。ワークライフバランスチームは、その機会を提供できるようチームとして活動を行っていききたい。

なお、セミナーの実施にあたっては、名古屋工業大学ダイバーシティ推進センターの共催を得て実施し、予算は学長裁量経費を使用した。また、ポスターに使用しているロゴマークは、社会工学専攻建築・デザイン分野大学院博士前期課程 1 年(当時)津葉井一紀氏に依頼し、永久使用の許可を得ている。

参考文献

- 1) 大西明子, 安形保則, 谷山八千代, 東美緒, 山本かおり, 平成 30 年度 機器・分析技術研究会報告集, pp.116-117
- 2) 東美緒, 安形保則, 山本かおり, 大西明子, 谷山八千代, 名古屋工業大学技術部技術報告集, Vol.20, pp5-8
- 3) 山本かおり, 安形保則, 東美緒, 大西明子, 谷山八千代, 静岡大学技術部技術報告第 24 号, pp.51-54
- 4) 谷山八千代, 安形保則, 山本かおり, 大西明子, 東美緒, 総合技術研究 2019 九州大学要旨集, p132
- 5) 谷山八千代, 安形保則, 東美緒, 山本かおり, 大西明子, 2019 年度 分子科学研究所 機器・分析技術研究会, 1-PA-04
- 6) 大西明子, 安形保則, 東美緒, 服部崇哉, 山本かおり, 谷山八千代, 名古屋工業大学技術部技術報告集, Vol.21, *in press*